

The illustration features a character with a large, faceted green headpiece that resembles a gemstone or crystal. The character's hair is dark brown and styled in a complex, layered fashion. The background is a soft, light blue gradient. The title '眼女の痕' is written in a stylized, white, serif font, with 'の' in a smaller size. The Roman numeral 'II' is positioned below the main title.

眼女

の

痕
II

HIKAWA/KAGEYAMA HI-KYU FAN BOOKS

2015.3 M5 -EMUGO-

PRESENTED BY, MEKAKO

"Goodbye, Happiness"

別れよう。

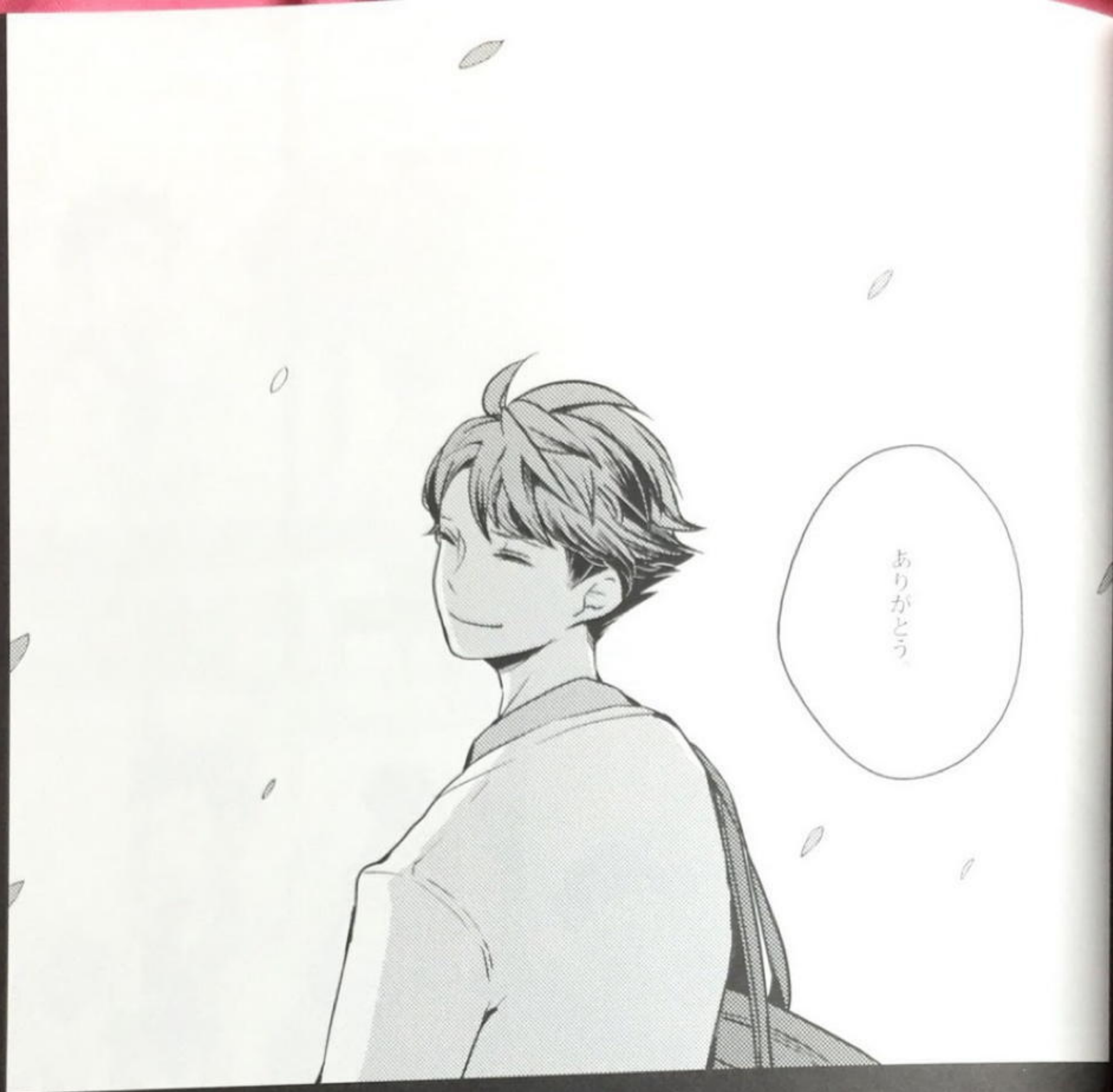
もう無理だよ。

...

何度目かの台詞

...うん、そうだね、

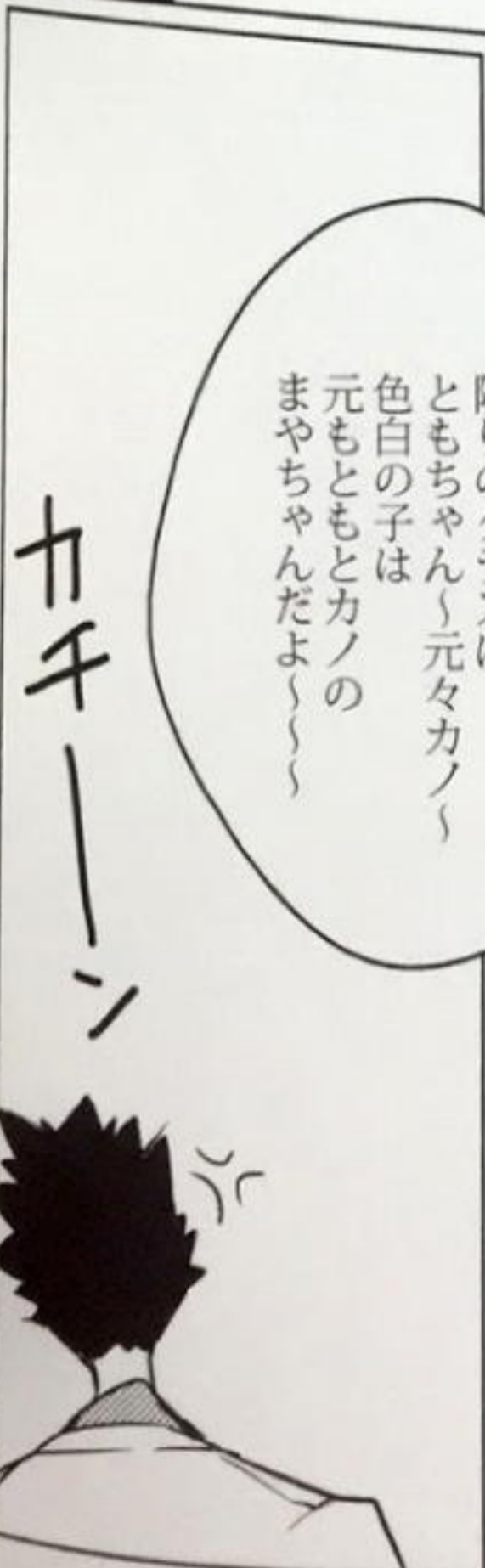
俺が決まって言う台詞



ありがとう。

それでいいし、それ以上なんてもうないから

その程度の ことだった。





結構好き
だったのに。

昨日フラれた。

話したいだけ
なくせに。

キーン



御愁傷様。

あ〜鬱だ〜

この気持ちの半分はウソ。半分は本当。



続かねえな本当。

そんな下衆を
見る顔で
見ないでよ！


顔は可愛いし
性格もいいし
足も長いし、
胸は小さいけどって

見た目だけなんていくらでも繕える でも心だけは違うだろう






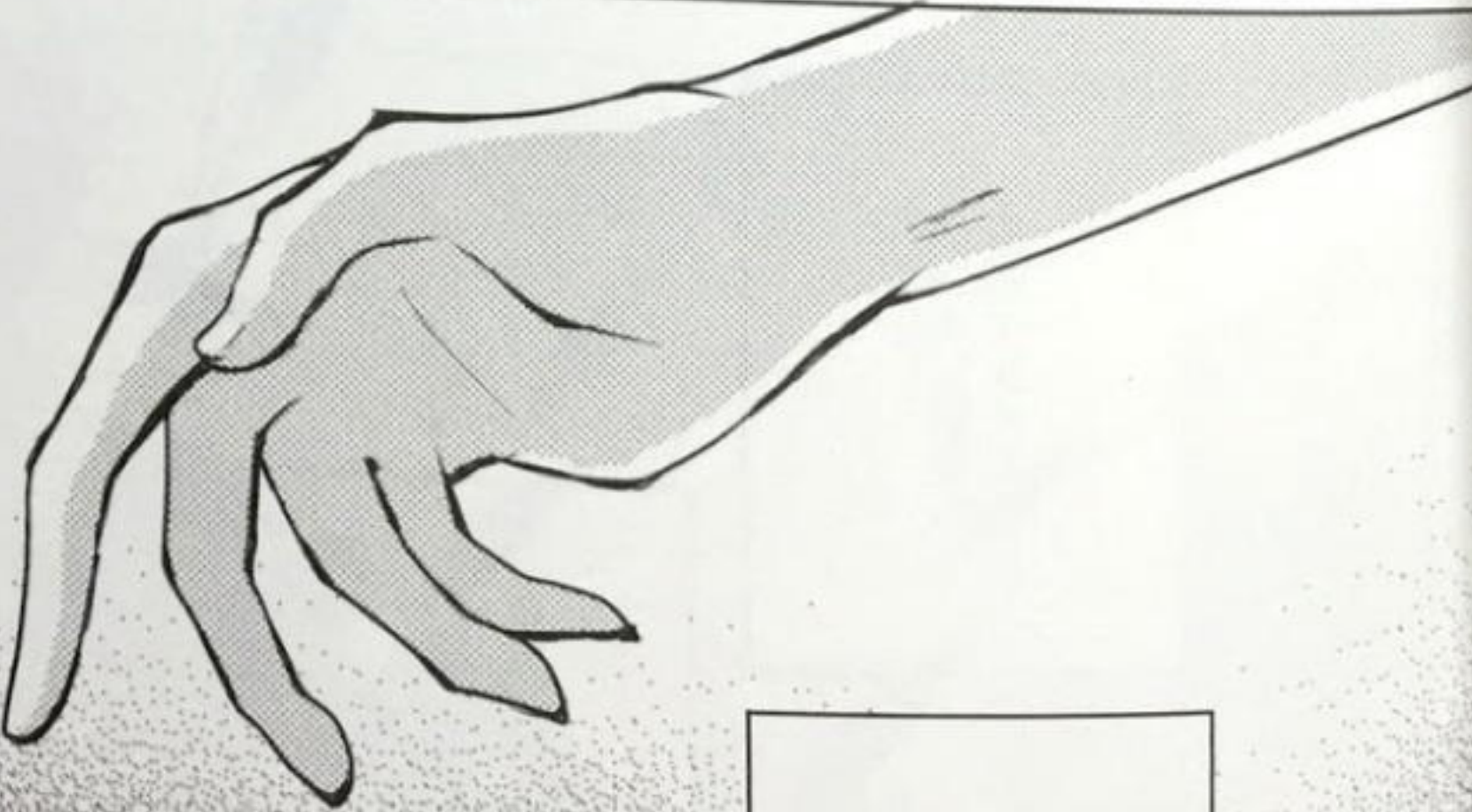
中学、
俺の前の最大の壁。



手を伸ばしても
掴む事すら
敵わない壁は



笑えるほど
簡単に
見えなくなって



俺をずたずたに
引き裂くには
容易かった





結果がでなければ
脚かない



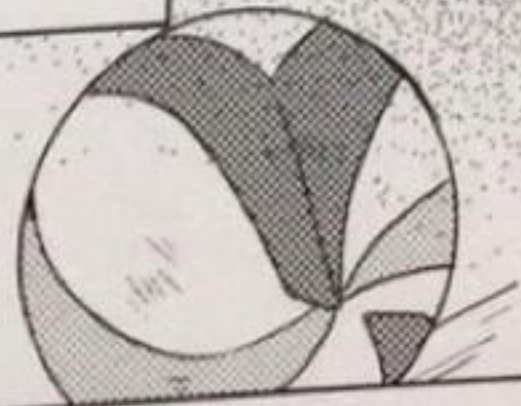
努力なんて

例え天才でなくても
「いつかきつと」
「必ず」
その衝動だけが
俺を突き動かしていた



バレーしかない
俺のプライドは

いつもそうやって
ギリギリで
息をしていた



でも、気づけば
あいつは
後ろにいて

及川さん、

何も知らないお前の

サーブ
教えて下さい

純粹な狂気の目は

ぼろぼろな俺を崩すには十分過ぎる光だった
このまま俺はこいつに この小さな天才に


とどめを刺されると 本気で思った



あの時の俺は
きつとそんなもの
だったと思う


サイテー

臆病者
卑怯者




あいつの為なんて
微塵も思っ
ていなかった


ただ自分を
守るために



あいつの真っ白で
純粹な世界の中に



一滴でもいい
少しだけでいい
黒い毒を
撒いてしまえば

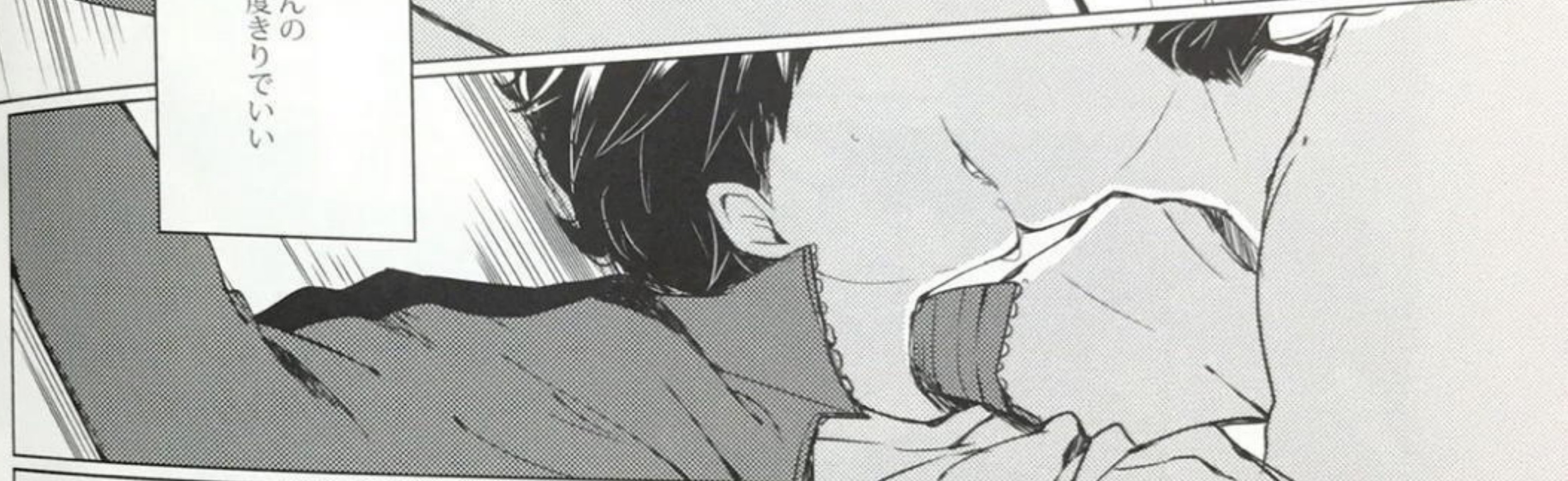


それは音もなく
じわりと
拡がって



そのうち息が
出来なくなる

ほんの
一度きりでいい



とどめを刺される前に、

とどめを



…
飛雄






これが映画の
主人公だったら

苦しい時を乗り越えて
勝って、勝って
全国行って
プロになって



世界に行って、



真つすぐで
揺るがなくて
強くて格好良くて



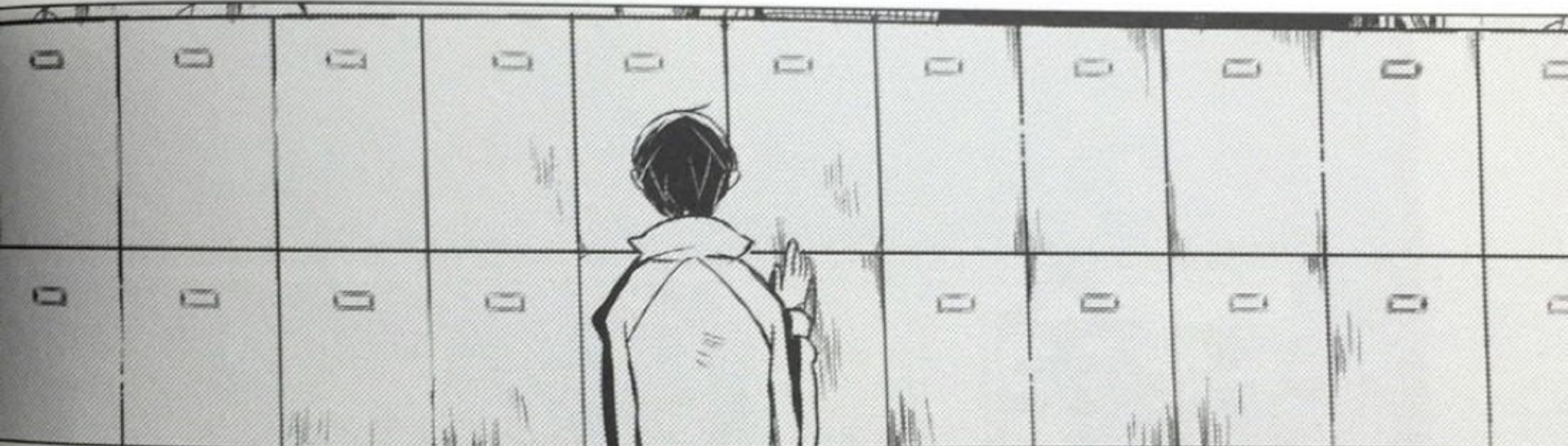
この奇麗な景色の違和感の原因は、
たぶん、俺だ







俺とは違う



バレーの神様に愛された子





あれ？
飛雄？



それはバレーの神様に
愛された名前



ゲッ何お前
こんな時間まで
練習してたの？

及川さん……！

それは、バレーの神様に、愛されなかった俺の名前



忘れ物
取りにきたの。

……及川さんは
何しに来たん
ですか？

無いものねだり 俺に無いものを何でも持っているのに



……

教えて
欲しかったです

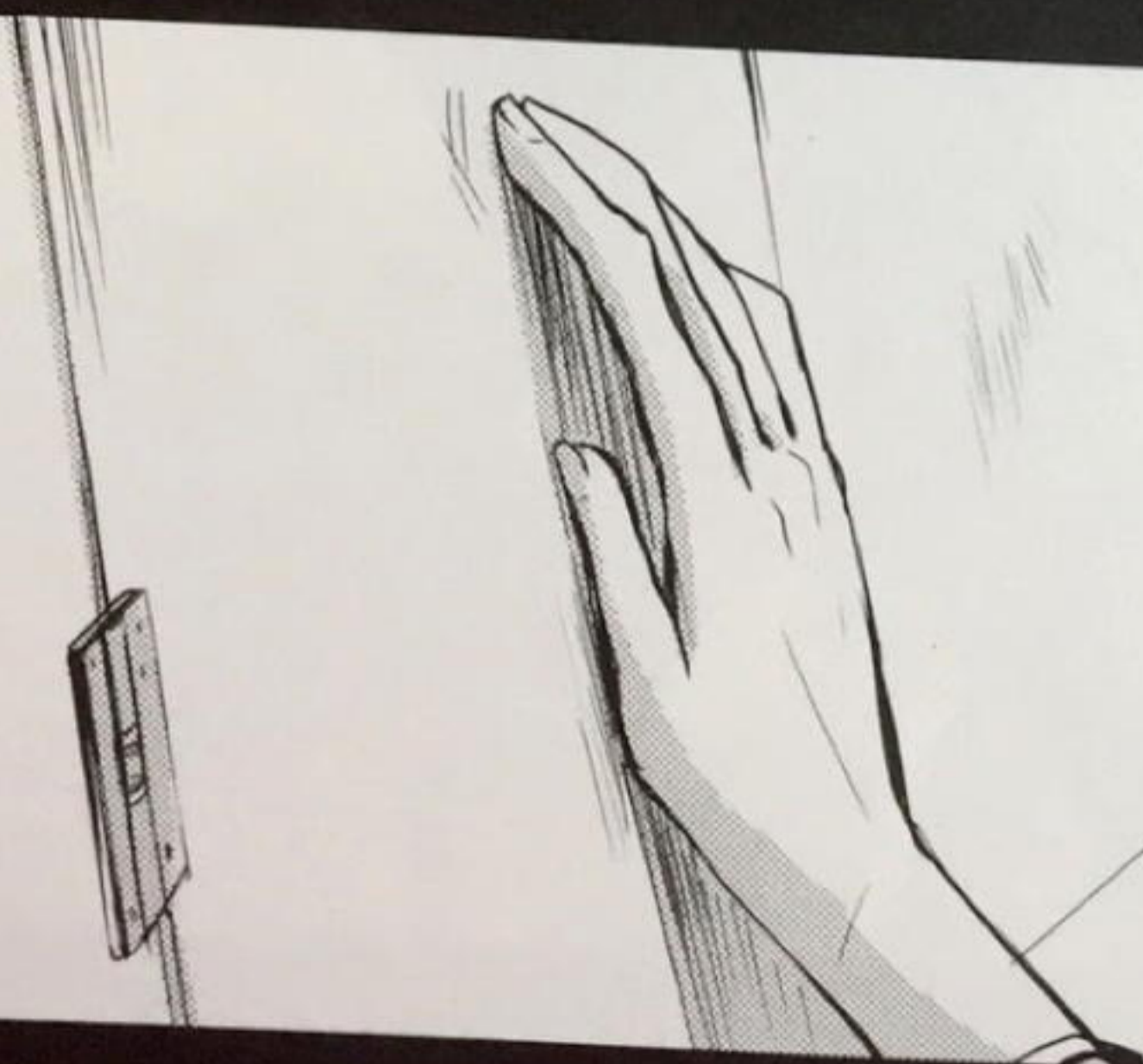
……もっと
及川さんに



ねえ、その目でこれ以上



俺の何を奪うつもりなの



その時俺の腹の底のそれが、
怖いぐらいに静まったのがわかった

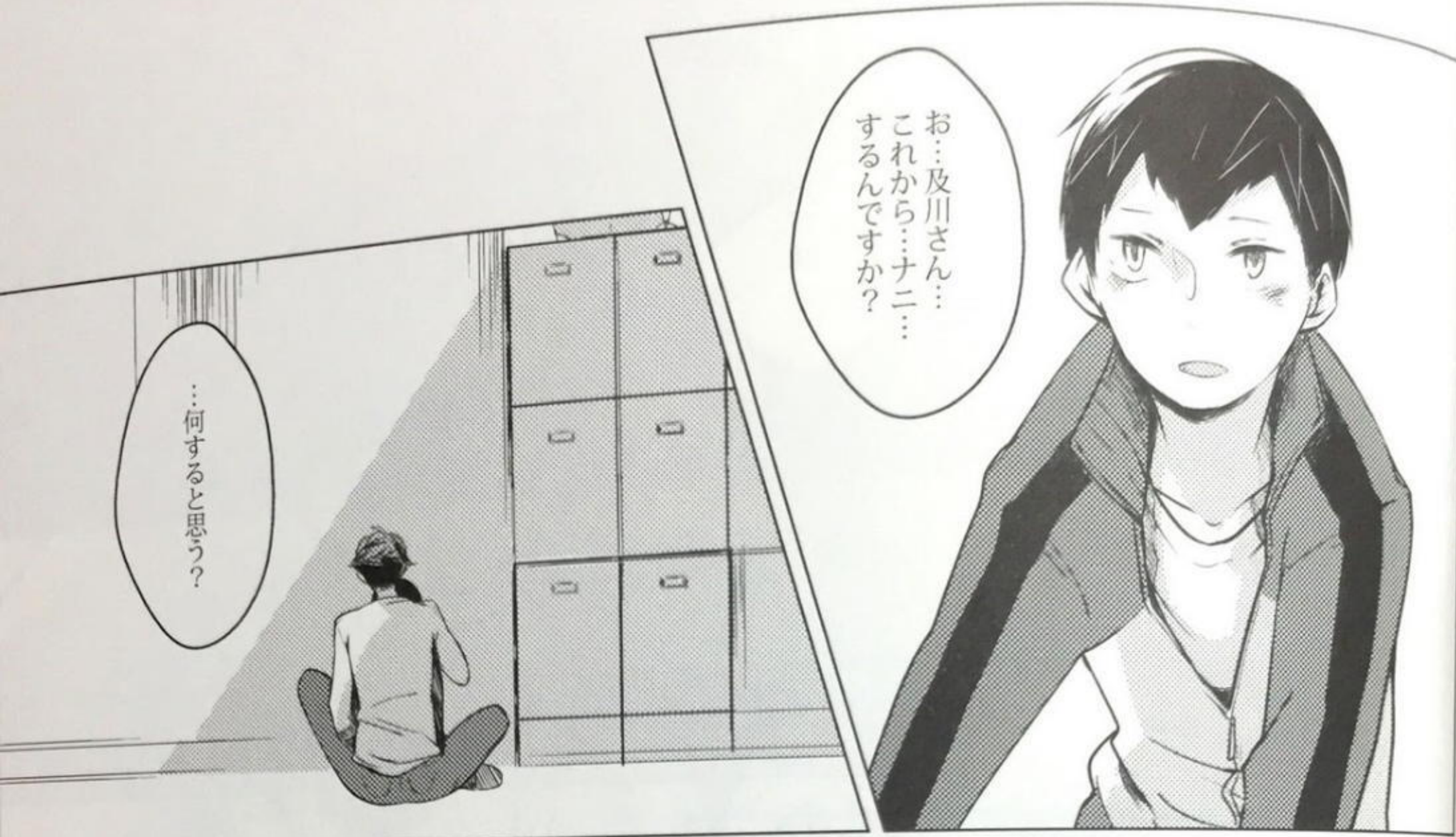
嵐の前のような気分だった



頭の片隅で何かが聞こえた気がしたけど



もう何も聞こえなくなった



何も知らなくていいよ



心底罪だと思った



真っ白な服を
泥だらけにしていく感覚



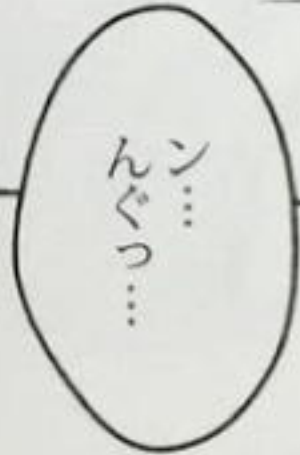
教えてあげるよ

忘れないでね

優しい優しい大好きな先輩の 吐き気がするぐらいの黒いもの全部







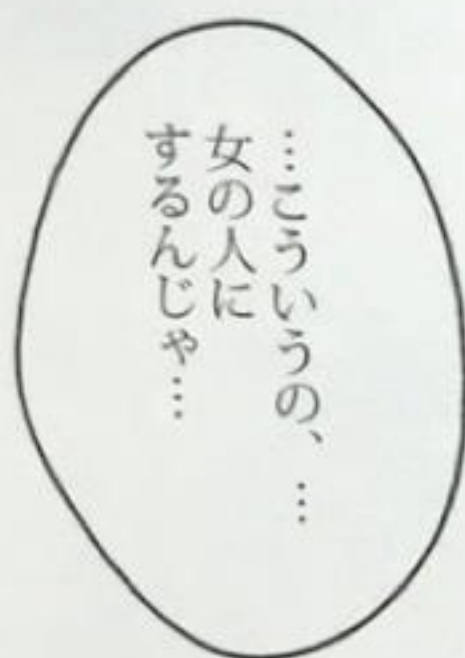


これが、
大人のキスって
やつ。

…苦しかった？



……



…こういうの、
女の子に
するんじや…



…そうだね、

俺も
男にするのは
初めて。

でもすごく
興奮する。



ねえ、
飛雄…

セックスって
知ってる？



……え…？



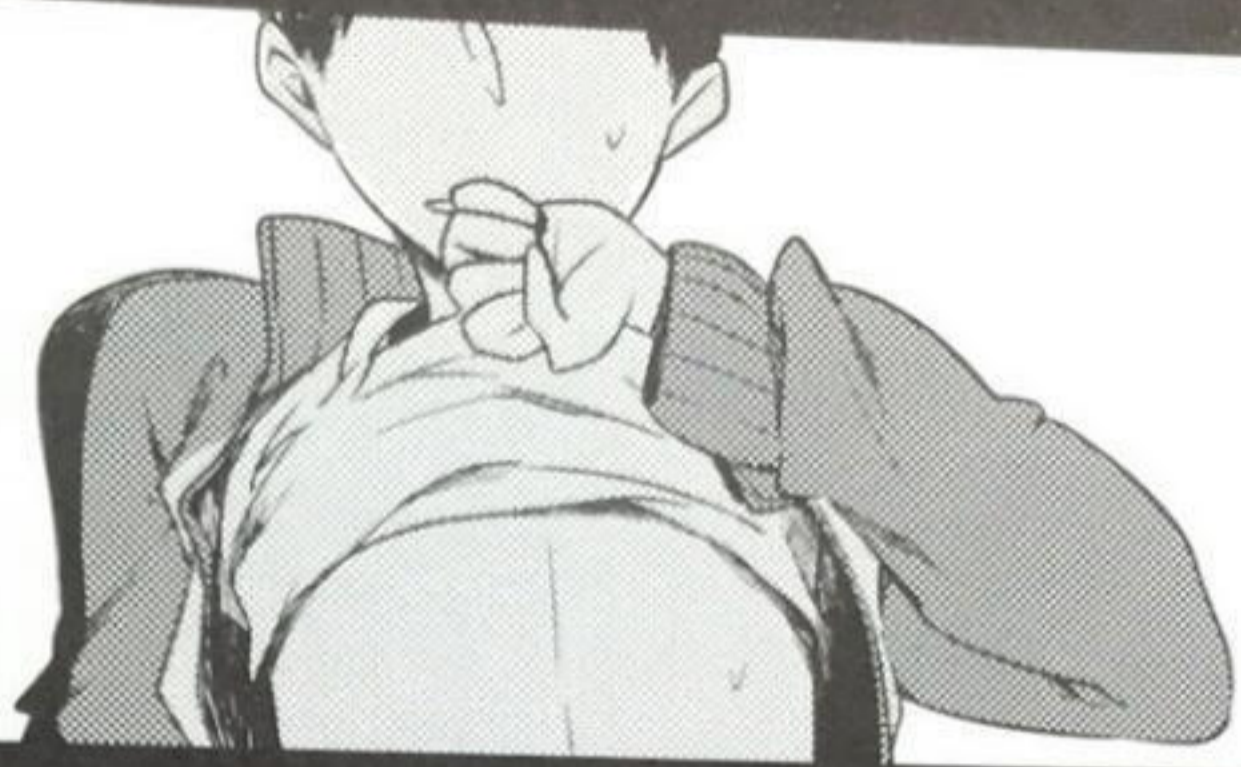
俺今、
飛雄にしようと
してるの。



どうする？
止めるなら
今だよ。

答えは 決まっているのに

.....うん.....



何て狡くて 何て最低な問いだろ

.....や...めないで...
ください...ッ



俺一人の罪を



.....うん。

共犯にした

あの時の俺は どんな顔をして それを聞いていたのだろう



自分より幾分も幼い身体が 妙にリアルで 綺麗で



ぐちゃぐちゃにしてみたくなった



…すごいね
飛雄、

指だけで
そんなに
なっちゃうの。



泣かないで、

だって…
死ぬ…恥ずか
しくて…しぬ…

死なない
死なない。



…セックスってね、

人の一番恥ずかしくて
一番弱いトコロを
擦り合うの。

……
ッ

確かめ
合うんだ



そうやって
擦り合って

絶対にひとつにはなれないから

自分がここに
いるって
判らせる



相手の全部
内側まで

とても身勝手に残酷で乱暴な横暴で

だから、
飛雄も
覚えていてね



心はどこかに置いたまま



どうか君の世界に遺って 消えずにあり続けるようにと



最低な願いを祈った



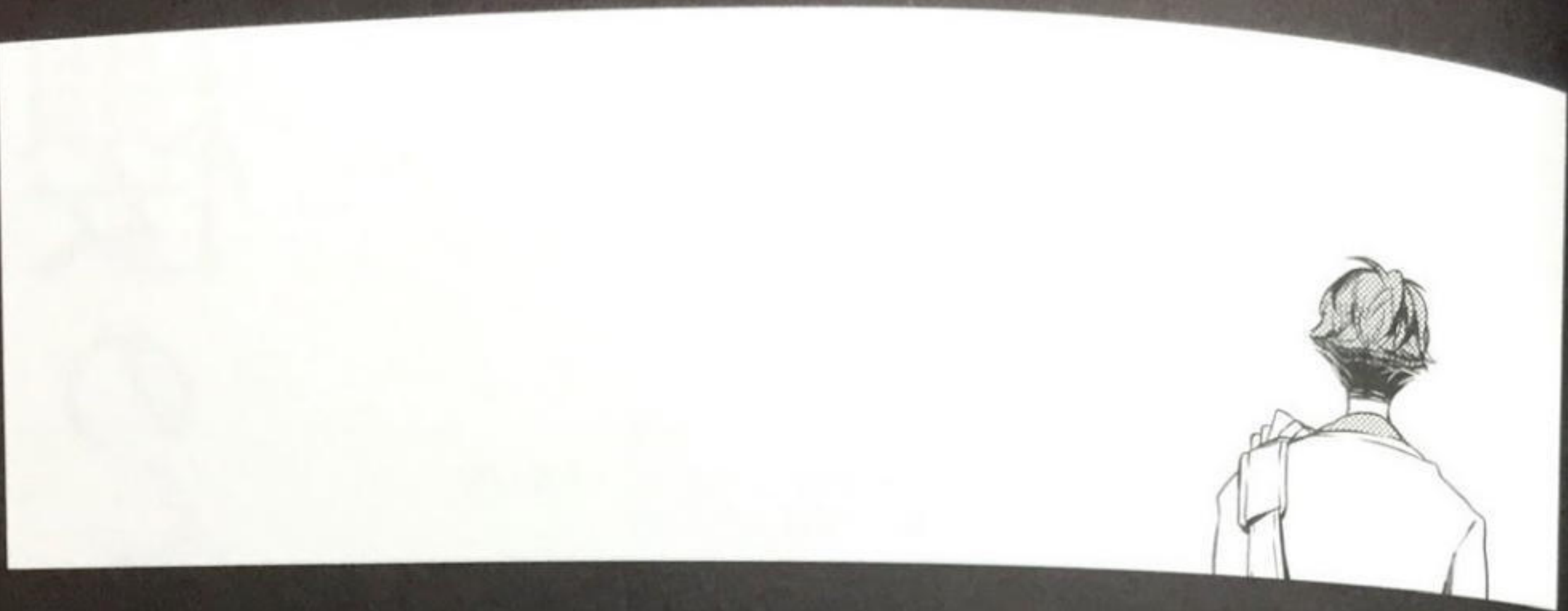
自分を守る為に



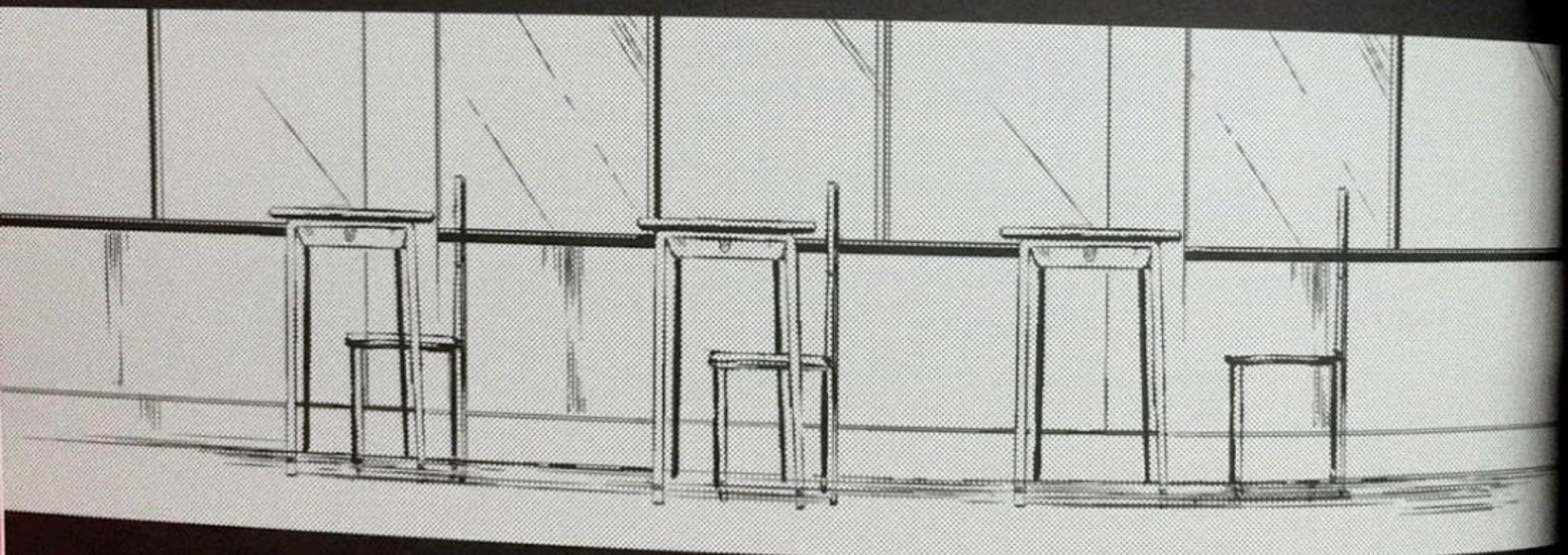
でも、俺は



まだ、



この痛みだけの繋がりを



忘れられずにいる

黙
文

の

真

II

OIKAWAKAGAYAMA HI-KYU FAN BOOKS

2015.3 ME -EMUGO-

PRESENTED BY MEKAKO

"Goodbye Happiness"